

令和6年6月13日

令和5年度の主な事業報告

社会福祉法人 畏敬会

社会福祉事業

レーベンホーム戸田：令和5年4月に1階フロアのユニット型特養8床＋個室ショートステイ4床、計12床への利用が進み、ユニット型50床の平均入居数は45.5、ショートステイ4床の平均入居数は2.3人で計47.8人、従来型特養50床の48.9人と合わせ94.4%の稼働率であった。新型コロナウイルス感染の施設内持ち込みを防ぐために、新規入居、ショートステイ利用者の抗原検査や隔離対応、職員一斉抗原検査などのでき得ることを試行錯誤し、現在は入居前健康調査、短期間の隔離もしくは距離を取ったフロア対応などで感染のまん延を防ぐ取り組みを継続している。一方、稼働率だけでなく経営に関しては、ここ1-2年の物価高騰の波に福祉事業にも多大な影響を受け、今回の決算は、光熱費の補助や、コロナ陽性者の施設内療養に伴う補助金等、公金の補助なしでは立ち行かなく、今回の介護報酬改定により職員へのさらなる処遇改善やベースアップ、厨房委託費用など経費の増加に充当できると考える。また、今回の増床に伴う支出・返済に加え、ここ1-2年は機器設備の故障・修繕の機会も増えているが、この10年の見守り機器等の進歩も大きく、監視カメラの導入は事故の検証に役立つなど、既存システムの更新も視野に入れた大規模修繕に向けた計画も今後、進めていく必要がある。

社会福祉事業

レーベンホームわらび：5年を過ぎたわらび施設は、新型コロナウイルス感染クラスターも散発したが、従来型特養併設のショートステイ利用の要望が強く、2つある2人部屋陰圧室を駆使して、新規利用の制限を少なく、感染者の施設内療養を行い得たことで従来型50床の平均入居数は49.3、ショートステイ10床の平均入居数は4.7人で計54人、ユニット型特養40床の38.5人と合わせ92.5%の稼働率であった。ショートステイはロングショートを中心とした利用であるが、戸田のユニット型ショートとわらびの安価な従来型ショートの両システムが稼働したことより、より柔軟な運営を始めている、とくに病院から在宅へ復帰する場合、吸引ができるショートステイは少ないので、一時利用から始め、在宅復帰困難の判断から、新規入居へつながる運営方法によって、地域のニーズに答えられてきている。

介護現況報告

今回のコロナ禍で医療・福祉業界の取り巻く環境は大きく変わってきた。高齢者人口の増加だけでなく、今まで高齢者夫婦や独居で生活できた多くの方が、入院を契機に在宅生活が難しくなり、そのため親の住まいがある、もしくは子の住まいや働き場所である埼玉県南地域での入居需要が増大している。徐々に介護が必要になり、最後は入居というパターンから、ある日突然、入居が必要になってくる。しかしながら入居となると、その人の介護必要度、性格、家族の対応、支払い能力など不明な点が増え、急な入居のリスクもある。退院後、そのままショートステイ（料金によりユニット型、従来型の選択可能）利用を試みることで、在宅復帰か施設入居か判断できるため、家族にとっても施設の運営面からも有益なシステムと言える。

一方、介護職員をはじめとする職員の賃上げ等の処遇改善は、喫緊の話題である。職員採用だけでなく離職防止、さらにキャリアアップによる賃金体系のステップアップは、職員教育も兼ねた大きなテーマとなる。さらに今年度は、女性職員の育休取得4名、育児時短勤務2名、男性職員育休取得1名と働きやすい職場として評価できるが、今後は介護休暇、さらなる福利厚生の充実も図りたい。